

令和6年度

保育協議会だより

№ 1



秋田市保育協議会

新施設長紹介



めぐみ保育園
園長 齊藤美奈子

この4月より園長を務めさせていただいております。

平成29年に開園しためぐみ保育園もこの4月で8年目を迎え、開園当初全園児合わせて38名ほどだった子どもたちも、令和6年4月を61名で迎え、今年度末までに入園する0歳児を迎え入ると70名になる予定です。開園当初から園長補佐兼主任保育士として7年間勤務し、前園長のそばで一緒に働かせていただいていたとはいえ、いざ、この立場に立つとこれまで以上に1日どころか、1時間があったという間に過ぎていきます。しかし、私自身はまだまだ自覚がないこともあり、職員や保護者の方との挨拶や会話もこれまでと変わらなく過ごしているところでもあります。

思えば、前園長の退職に伴い、次期園長にとの話を頂いたときから「私なんかには務まるのだろうか。」と自問自答しながら、新しい体制での初めての職員会議を迎えたのが3月の中旬。そうなるともう、「なんだかんだ考えても仕方がない。やれることをやろう。」そう考えるだけです。今までの私を全て変える必要もないのだから、これまで築いてきた職員、園児、保護者との関係性を大切にしながら、皆さんの協力をどんどんもらえばいいんだと思うことにしました。

『めぐみ保育園は働きやすい職場だと自慢できるようになりたい。安心して預けられる園だと保護者に思ってもらいたい。』そんな前園長の思いを私も受け継ぎ、更に自園の課題である地域の人たちとの交流を何とかして深めていきたいと思っています。

そして、登園時に涙で保護者の見送りをした子どもたちが、降園時には笑顔で保護者をお迎えできるよう、そして「また明日、保育園で遊びたい」と思ってもらえように、保護者とのコミュニケーションを大切にし、一人一人の成長に合わせた保育を提供するために、職員相互の連携を何よりも大切にしたいと思っています。

園長1年目の私です。まだまだ至らないことは当然と覚悟し、周囲の皆さんに支えてもらいながら、一步一步、歩みを進めていきたいと思っています。どうぞ、ご指導、ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

新施設長紹介



上北手保育園
園長 佐々木美佐子

社会福祉法人大空会を設立してから18年目を迎え、令和6年度は園児数83名、職員数30名でスタートしました。当時は園児数の増加により部屋を増設し、正面から見上げる園舎が横に長くなったのも特徴の一つです。また、後ろには小高い山があり、新緑の頃はトト口の頭の形をした森林が顔をだし、トレードマークにもなっています。ときどき、保育室の窓から木の実を探しに来たカモシカを見ることができ、子どもたちは喜びと興奮で、賑やかなひとときを過ごすこともあります。

現在、乳児期からの保育の需要が増えている中、保育士にはさまざま役割が求められています。私たちは、子どもたちが個々に必要な援助を受けながら園生活を楽しめるように、必要なサポートや支援を関係機関と連携しながら取り組んでいます。また、保護者の方が求めるニーズに応えられるようアドバイスや相談に耳を傾け、保護者の方とのコミュニケーションも大切にしています。少子化が加速化し、年々児童数も減少している中、保育のニーズの多様化に対応するために、保育、子育て支援や職員のスキルアップを目指していきたいと思っています。

私自身、保育士になったきっかけは、自分の幼少期に出会った先生たちがいたからです。数十年前のことですが、当時の園長先生が優しかったことも園が楽しかったことも覚えています。私も上北手保育園の子どもたちの心に残るような、楽しい園づくりを心がけていきます。また、前園長は「チーム上北手」として、全職員でいろいろな課題に取り組み、チームワークを大切にしていました。それを引継ぎ、令和6年度も子どもの笑顔のため、職員のチームワークを大切に進んでいきたいと思っています。

これから、どうぞよろしくお願いたします。

新施設長紹介



ならやま認定こども園
園長 石塚 法子

今年度より園長を務めさせていただいております石塚法子と申します。前園長をはじめ諸先輩が大切に築いてきた理念や方針を受け継ぎ、さらに充実を図れるように努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

ならやま認定こども園は1973年に認可保育所として開園し、2019年に保育所型認定こども園に移行し、昨年創立50周年を迎えました。敷地内には放課後児童クラブも併設しており住宅地に位置していますが、園の周辺に複数の公園や小学校、中学校があり自然活動や幼保小の連携を図りやすい環境にあります。

2021年から2年にわたり園舎増改築と放課後児童クラブの新築工事を経て、動線がとれやすく活動のしやすい環境になりました。時代と共に「みんなが一緒」の一斉保育から、一人一人の主体性を大事にする教育・保育に変わり、こども園では広々とした新園舎で伸び伸びと生活ができ、自分が思ったように元気いっぱい遊びを展開している子どもたち..そんな中で、挨拶の飛び交う園内、笑顔いっぱいの保育室、そして家庭的なコミュニケーションづくりを大切にしながら教育・保育を進めています。子どもにとって園に自分の居場所があって、大好きな先生がいて、「こども園が大好き」「明日もこども園に行きたい」と思ってもらえるような関わりを大事にしているところです。

子ども一人一人の心をありのまま受け止め、人と人とのかかわりや生きる力・喜びをしっかりと育てていきたいと思っています。子どもたち、保護者の皆様、そして地域の方々にとってこども園が出会いの場となり「ほっとできる」園になるよう努めて参ります。

至らないこともあるかと思いますが、ご指導の程よろしくお願いいたします。

新施設長紹介



わかこま第二保育園
園長 三條 正弘

4月から本園にお世話になっております。前任の山田園長先生はマジシャンです。様々なマジックを使って子どもたちの心を踊らせ、保育士の皆さんのチームワークも抜群。園舎のすぐそばには木々の緑がまぶしい公園があって、素晴らしい環境が整っている園です。

園舎は鉄筋コンクリート3階建てで、6年前に完成しました。1階東西のバルコニーでは、0歳児～2歳児が優しい光を浴びて日光浴やシャボン玉遊び。2階の少し広めのベランダでは以上児さんたちが夏は水遊び、冬は雪遊びを楽しめるだけのスペースがあります。それぞれの保育室は縦に長く、面積も十分。子どもたちが様々な遊びに別れて、好きな遊び事にグループで夢中になっても余裕があるくらいです。

もう十分魅力たっぷりな園ですが、この園の特色として私が試してみたい事が一つあります。それは、地域素材の活用です。本園の立地場所は秋田市の山王地区。ここは官庁街であるとともに八橋一帯に広がるスポーツ関連施設、県立児童会館や図書館まで1キロ以内です。年少クラスぐらいの脚力があれば十分歩いて行ける距離にあります。園バスがなくとも行ける所に、思い切りかけっこのできるグラウンドや魅力たっぷりの遊びの広場やプラネタリウムがある...すごいですよね！県立図書館の「絵本の部屋」には子どもたちの要求を満たしてくれる絵本や図鑑がどっさりです。図書カードを作ってもらって借りてきちゃおうか、そんなこともできるかなとも思います。

園では体操教室や音楽教室、水泳教室、英語教室と様々な感動体験の機会も設けていますが、子どもたちの興味関心はとてつもなく広がっています。近隣の山王六丁目町内には、ほかにも様々な趣味をもっている方々がいらっしゃるかもしれませんよね。それに、秋田市ではサッカーやバスケットボール、ラグビーに新体操といったスポーツの普及に熱心な方々もおります。川尻小学校の1年生の皆さんとも、偶然総社神社の公園あたりで一緒になって交流できたりするかもしれません。

子どもたちのワクワクやドキドキをもっともっと増やしてあげたいものです。そのためには、なによりも大人（保育士、給食調理員さんや清掃補助のたちの方も）がワクワクを感じる職場でありたいと思います。あっ、忘れていました。率先してワクワク、ドキドキな毎日を送っていくのは、園長自身でなければ！！

この気持ち、これからずっと大切にしていきたいと思っています。



令和6年6月 発行

令和6年6月 発行